

平成22年度に

新しく市指定文化財に指定されました



輝いているひと

くろだ たくお
黒田 拓夫さん

昭和7年7月30日生まれ 78歳(みどり野行政区)

サラリーマン時代は実業団バレーボールや山登りをやっていたほどのスポーツマンです。

姿勢が良く動きも機敏で、10歳は若く見られます。「昔から体を動かすことが好きだった。人と関わるのが好き」と話す黒田さん。市主催の元気教室をきっかけに、みどり野行政区での「うしくかっぱ体操」に参加、皆勤賞でいつもすてきな笑顔をみんなに振りまいています。

問い合わせ 市高齢福祉課 ☎内線1754

① 姥神遺跡出土宝珠硯

(牛久市教育委員会蔵)

現在の東海地方で製作された平安時代の硯です。このように宝珠の形をした硯は、茨城県内での出土例は少なく、貴重な資料です。



② 雲魚亭(城中町)

昭和12年に建てられた、日本画家・小川芋銭のアトリエ兼居室です。現在は、「小川芋銭記念館」として一般公開されています。



③ 青面金剛像(東端六町)

江戸時代に盛んであった庚申信仰の対象として大切にまつられていました。市内では他に例の無い珍しい姿をしています。



問い合わせ 市生涯学習課 ☎内線3031

画聖 小川芋銭

小川芋銭新発見資料①

現在、小川芋銭研究センターでは『小川芋銭全作品集』の編さんを進めています。芋銭は、生涯で多くの作品を残しており、その発表の場は新聞・雑誌・展覧会など多岐にわたることから、資料収集を困難なものにしています。

芋銭は、明治30年代からさまざまな新聞に多数の挿絵などを掲載しています。そのため、当センターでは、明治期から昭和初期に発行された新聞を1枚ずつ確認し、調査しています。今年に入り、『東京日日新聞』大正2年1月2日号に「老」と村の往来(図1)という作品を発見しました。『東京日日新聞』は、現在の『毎日新聞』の前身にあたる新聞で、当時は『東京毎日新聞』という別の新聞も発行されており、こちらにも芋銭の挿絵が掲載されています。

さらに、『大阪朝日新聞』明治44年1月から同45年4月にかけては、新たに16点の挿絵(図2)を発見しました。『大阪朝日新聞』は、現在の『朝日新聞』の前身にあたる新聞です。これまで『東京朝日新聞』では確認されていたものの、『大阪朝日新聞』は初めて原紙で発見されました。これにより東京だけでなく、大阪の人々にも幅広く目に触れられていたことが分かりました。このように、新聞にはいまだ世に知られていない芋銭作品が掲載されている可能性があるため、芋銭の研究を進めるためには新聞の歴史も知っておく必要があるのです。

今回は、この新たに発見された資料の詳細について解説をします。



↑ 図1「老 ■ と村の往来」
(『東京日日新聞』大正2年1月2日号掲載)

※ ■ の部分は判読不能の文字



↑ 図2「羅浮」
(『大阪朝日新聞』明治44年2月7日号掲載)

小川芋銭研究センター学芸員

秦美紀子